神静民報

発行所
小田原市栄町3-21-2
株式会社神静民報社
営業所
小田原市久野4502
☎ 0465 - 35 - 1888
FAX 0465 - 30 - 1888
無断転写禁止
定価1カ月2000円
定価1部 90円
sinsei-n@chive.ocn.ne.jp

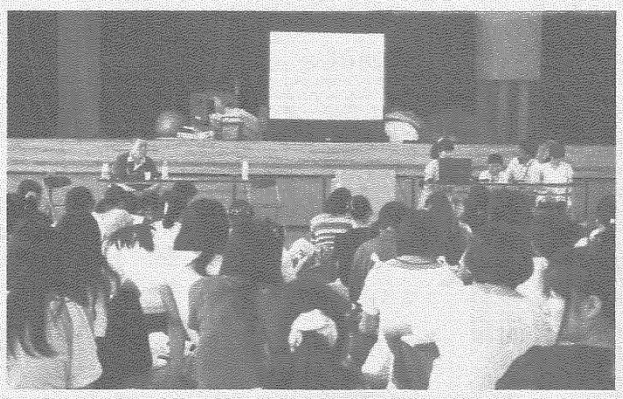
2017年（平成29年）7月21日（金曜日）

障害ありのまま理解を

足柄療護園の利用者ら 小田原短大で講演

障害のある人たちのありのままの声を聞き交流する特別授業が、小田原短期大学（小沼肇学長、小田原市城山）の保育学科2年の生徒約130人を対象に開かれた。

上野文枝講師の指導する「社会的養護」の授業の一環。居住型施設の足柄療護園（社会福祉法人県西福祉会、南足柄市）の利用者3人が11日、学生たちを前に講演した。



講演を熱心に聴く学生ら

3人のうち前田剛さん（54）は18年前事故で大けがをし、命は助かったものの言語障害や体のまひが残ったことなども含め自己紹介。

ときにはユーモアを交え「注意一秒けが18年」「人生は一度きり」「家族や友達は大切に」などと語った。

石川和子さん（71）は幼いころの高熱が元で脳性まひとなり、言語や手足が不自由に。50歳を過ぎて車いす生活となり、同園に入所。今は日常生活のさまざまなことを、できるだけ自分で、助けを借りてやっているという。外出や陶芸の趣味なども大好きなど、普段の生活ぶりを話した。

鈴木めぐ実さん（30）は、高校生の時にかかった難病がもとで生活が一変。「運命は避けられない」「今こうして生きていることが奇跡」との思いから詩作に打ち込むようになった。

この日は学生たちに向けて、自作の詩を朗読。「生きていることを当たり前と思わずに1日1日をハッピーに過ごしてください」とメッセージを贈った。

講演後、学生たちは、言語障害のある人の立場になって、言葉以外での意思疎通にチャレンジ。身振り手振りで表現し合い、言葉で簡単に伝えられることが、言葉なしでは難しいことを実感した。

学生からは、「障害のある人たちと接することは普段ほとんどないので、知らないことばかりだった。直接話を聞けてよかった」「自分が同じような立場だったらどうしていただろうと考えた。与えられた命と健康を大事にしたい」「皆さんの努力と、前向きな生き方に感動した」などの感想。

保育士を目指して学ぶ学生たちだけに、「人それぞれに意志表現や伝え方が違うことを理解しなければ。それは、自分たちが目指す保育の場でも同じだと思う」などの声もあった。

足柄療護園では9年前から施設利用者の障害者による講演活動を続けている。「地域にはたくさんの障害者を持つ人が暮らしていて、喜ぶこともあれば悲しむこともある、心は皆同じなんだということを知ってほしい」との思いでスタートした。

これまでに17人が車イスのまま出張講演し、聴講者は学生や社会人など延べ5700人以上。ありのままの日常生活や自分の障害について語り、大きな反響が寄せられた。

同園の柴田和生施設長（県西福祉会事務局長）は「学校だけでなくボランティアの勉強会など、希望があればどこでも出張するので、お声がけください」と呼びかけている。

神静民報
2017年7月21日